

# 令和6年度 府中市立府中第四小学校 経営計画

令和6年4月18日

府中市立府中第四小学校長  
安原 一朗

## 1 目指す学校

府中第四小学校は、明治6年開校であり、長い歴史と輝く伝統のある学校である。開校以来、地域や保護者から「地域の中の学校」として愛されている。保護者や地域の方々の本校の教育に対する関心は高く、昔も今も誇りに思い、期待をかけ、応援を惜しまない地域である。151周年の歴史と伝統を守りつつ、さらなる発展を行う使命がある。保護者の期待に応えるため一人一人の子供の健やかな成長を目指して心豊かで将来に夢や希望を抱いてたくましく生きていく子供を育てる。そのために、子供たちが目標に向かって日々の努力を継続し、学ぶ喜びや励む楽しさを体得できる学校づくりを行う。児童も教職員も活力にあふれ、自己実現できる学校を目指す。

人間尊重の精神を基調に、心身ともに健康で人間性に富み、自主性と実践力のある  
「みずから きりひろく たまっ子」児童を育成する。

### たくましい子

心と身体の健康づくりにねばり強く取り組み、最後までやりとげる子供

### まっすぐな子

自ら学び 自ら考え 正しく判断し、表現することができる子供

### こころあたたかい子

お互いを尊重し合い、思いやりの心と協力心をもって、よりよい集団を築こうとする子供

## 2 中期的目標と方策

### (1) 主体的・対話的・深く学ぶ児童の育成

#### ア 問題解決型・課題解決型な学習を徹底する

① 問題解決型・課題解決型の授業を通して、学ぶ喜びや追究する楽しさを実感させ、学問に対する謙虚さを身に付けさせ、自ら考え判断し主体的に学ぶことができるようにする。

#### イ 言語活動の充実により、読解力の向上を図る。

① 読んだり、聞いたりしたことを正確に理解する能力を向上させる。

② 校内の言語環境を整えて正しい言語感覚を育み、自分の思いや願い、考えを豊かに表現できる力を育てる。

#### ウ 授業の効率化、学習内容の理解促進のため、学習規律を徹底する。

① 学校全体での共通理解の下、全教職員で設定し取り組む。気持ちよく学習を進めるための手段であることなど、学習規律の役割を児童に理解させる。

#### エ 少人数習熟度別指導や学校支援員を活用する

① 算数科で1年生ではティームティーチング、2年生では少人数習熟度別の算数指導を通して、低学年時から算数に興味関心をもち自主的に学習に取り組める児童を育成する。

② 学校支援員を理科や家庭科の授業に配置し安全を確保した授業を行えるように計画的に行う。

③ 読書活動の充実を図るために、図書支援員を配置し図書室の充実を図り児童が意欲的に本を読む環境を整える。

### (2) 人間性豊かな児童の育成

#### ア 豊かな人間関係を育む

① 学級経営を基盤とし、児童理解を深め豊かな人間関係を育む。

② 学級、学年、異年齢集団、地域活動をとおり望ましい集団のあり方を学ばせ集団の一員としての自覚を高め、自主的な態度を育てる。

#### イ 体験を重視した活動を推進する

- ① 学校行事、宿泊行事等での体験を生かして感受性を養う。地域の中の一員として、地域行事に積極的に参加させ、郷土や学校を愛し、誇りに思う心を育む。
- ウ 道徳の時間を重視し、道徳性を育む
  - ① 学校の全教育活動を通して行う道徳教育での取組を道徳の時間で「補充・深化・統合」し、道徳性を育む。
  - ② 教員の授業力を向上させ、児童の道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
- (3) 心身ともに健康でたくましい児童の育成**
  - ア 健康な身体づくりの教育を推進する
    - ① 豊富な遊具を活用し、筋力や調整力・バランス感覚を養う。
    - ② 体力テストの分析を行い、年間指導計画に工夫を加え効果的な指導を行う。
  - イ 自ら積極的に運動したいという意欲を育てる
    - ① 体育集会等を活用し、体を動かす楽しさを学ばせ、自ら児童が体を動かす意欲をもたせる。
- (4) 健全育成の推進**
  - ア 基本的な生活習慣を確立し、挨拶、時間、規範意識を育む
    - ① 「早寝、早起き、朝ご飯」を励行し児童の基本的な生活習慣を確立させる。
    - ② 校内、校外で場に応じた挨拶ができる児童を育てる。
    - ③ 時間を意識させ、時間を守る習慣を身につけさせる。
    - ④ 発達段階に応じた社会のルールについて学ばせ、規範意識を高める。
- (5) 児童の生活環境等の整備**
  - ア 児童の心の居場所、児童同士が学び合える環境を教師が意図的に設定する。
  - イ 校内の指導体制(児童理解を深める情報交換と協力体制)を確立し、教育相談を充実させる。
  - ウ 校内の掲示物を学年学校協働の元に充実させ、明るく、夢をもって学習に取り組める環境を作る。
- (6) 校内研究を充実させ、本校の課題に対し組織的に取り組む**
  - ア ICTの活用を通して、学習意欲を向上させ、基礎基本を身に付けさせる。
  - イ 本校の課題である学力の向上に向けて、一人1台のタブレットの効果的な使用方法について研究を深める。
- (7) 地域連携を積極的に行い、地域に根ざした学校を目指す**
  - ア スクールコミュニティの充実を図り発展させる。
  - イ 保護者・地域の方々の思いや願いを受け止め期待に応える教育を推進する。
  - ウ 保護者・地域の方々の協力をいただき、教育環境の充実、地域安全マップ作り等の充実を図る。
  - エ 副校長支援員を活用し、積極的に教育活動を公開するとともに情報を発信する。
  - オ 第六地区小中連携を発展させ、中1ギャップ解消のための手立てを進める。
  - カ 保護者、児童に地域行事への参加を積極的に呼びかけ、「ふるさと府中」の推進を図る。
  - キ 第六地区、第六・第九地区、第二地区の青少対活動、コミュニティースクール活動を通して、児童・生徒が抱える課題を地域ぐるみで解決する仕組みを構築し、質の高い学校教育の実現を図る。
- (8) 安全管理及び安全教育を推進する**
  - ア 危機管理意識を高め、迅速・的確な対応ができる組織づくり
    - ① 小さな危機情報が、迅速・的確に管理職に伝わる組織、全職員の危機意識が研ぎ澄まされた組織を目指す。
  - イ 安全教育
    - ① 保護者・地域、関係諸機関と連携して、交通安全指導、防災指導、防犯指導を行う。
    - ② 「子供の命を守る」ために、四小防災マニュアルが有効に運用されるように保護者の理解と協力を得られるように努め、防災教育の見直しと充実を図る。
  - ウ 安全な教育環境づくり
    - ① 定期的に安全点検を行い、安全確保を図る。
    - ② 学校周辺及び校庭の美化に努め、防犯への配慮の行き届いた環境とする。
    - ③ 学校警備員による巡回による抑止効果を高め、児童の安全を守る。

### 3 今年度の取組の目標と方策

#### (1) 主体的・対話的・深く学ぶ児童の育成

##### ア 基礎・基本を徹底する

- ・ 学習規律については、①教師がしゃべるときには、完璧な沈黙を求める。③『先取りおしゃべり』は許さない。③教師が授業中の小さな音に敏感になる。④「はい・立つ・〇〇です」と発言の約束を徹底する。ことで、実現する。
- ・ 心の通ったユニバーサルデザインの考えを取り入れ、言葉の力を信じて、全ての児童にとってわかりやすい授業づくりを推進する。ICT機器の活用とユニバーサルデザイン化された授業で、授業を視覚化させ、ねらいに迫り、授業の中で学力を保証する。学校公開では、毎回ICT機器の活用した授業を行う。
- ・ 朝の時間を活用し算数、国語、読書の時間とし、書き込み型のスキル形式のドリルを計画的に活用し児童の基礎・基本の定着を図る。
- ・ 平日「毎日宿題」と「学習マラソン」（6年生）を推進し、学習習慣の定着を図る。
- ・ 高学年では期末考査を導入する。学期末計画表を活用し、目標をたて計画的に学習する習慣を身につけさせる。

##### イ 言語活動を取り入れ自分の考えをもち、表現できる児童を育成する

- ・ 全ての授業で、言語活動を取り入れた授業を実践させる。一人一人がノートに自分の考えを書く時間、意見交換し共有する時間、さらに自ら深く考える時間を一時間の授業の中に取り入れた授業を行う。
- ・ 国語科の授業を中心にして言語活動を重視して、読書活動の推進、俳句や短歌を発表する集会（五七五集会）、校内掲示の工夫等により思考力・表現力を高める。
- ・ 算数科では、多様な考え方ができる課題に向けて児童の様々な考えをノートに表現し、学級で発表することで共有し、さらに深め、思考力や表現力を高める問題解決学習型の授業と、スモールステップで習得、習熟を重視する授業とをバランスよく実施し、「わかる」「できる」を児童に体感させる。問題解決学習型の授業は単元の初めに実施し、あとは習得、習熟を重視する授業を実施する。

##### ウ 少人数指導や学校支援員の活用

- ・ 算数指導において、低学年でも少人数指導を実施し基礎基本の徹底を図る。さらに中学年と高学年では個に応じた少人数指導に発展させ児童の学力向上を図る。
- ・ 授業の年間指導計画のねらいを達成するために学習支援員を効果的に活用する。また、安全安心の確保のために、理科、家庭科に優先して配置する。

#### (2) 人間性豊かな児童の育成

##### ア 豊かな人間関係を育む

- ・ 学校生活の基盤となる学級が全ての児童にとって居心地のよいものになるように児童が落ち着いた気持ちで過ごすことができる学級経営を推進することで、不登校・いじめ等の未然防止、早期発見、早期解決を実現する。
- ・ 個と集団のかかわりを重視した授業づくりを展開する。
- ・ 地区児童会やきょうだい学級集会等、異学年との交流活動を推進する。
- ・ 地域行事に積極的に参加させ、地域の中の一員としての自覚を促す。

##### イ 体験を重視した活動を推進する

- ・ 各学年で行う全ての体験活動や宿泊行事で児童の感性を育む。

##### ウ 道徳の時間を重視し、道徳性を育む

- ・ 教科書を中心に『郷土府中に根ざした道徳資料集』等を活用し、児童の道徳性を育む。
- ・ 全教育活動で道徳教育を推進し、道徳の時間で補充・深化・統合するために、別葉を活用し意図的効果的に授業を行う。

#### (3) 心身ともに健康でたくましい児童の育成

##### ア 健康な身体づくりの教育を推進する

- ・ 健康な身体づくりを行うために、四小体操、四小ボール体操を継承する。
- ・ 豊富な遊具を活用し、バランス感覚を養い体力向上を図る。
- ・ 体力テストの分析を行い体育科年間指導計画に本校の弱み克服のための手立て

を考えた授業を意図的に展開し、検証する。

イ 自ら積極的に運動したいという意欲を育てる

- ・ 体育集会等を活用し、体を動かす楽しさを学ばせ、自ら児童が体を動かす意欲をもたせる。

#### (4) 健全育成の推進

ア 基本的な生活習慣を確立し、挨拶、時間、規範意識を育む

- ・ 挨拶運動を推進し、自ら進んで元気よく挨拶できる子供を育てる。
- ・ 学ぶ習慣の定着を図る。（「はい・立つ・〇〇です」発言の約束 時間を守る等）
- ・ 児童の生活習慣を確立するため、担任、養護教諭、家庭で連携をとる。
- ・ あらゆる場面で「時間」、「あいさつ」を意識して取り組めるように意図的に場を設定し定着を図る。

#### (5) 児童の学習生活環境等の整備

ア 児童が安心できる居場所、児童同士が学び合える環境を教師が意図的に整備する。

- ・ ユニバーサルデザインを意識し、児童が生活しやすい環境を整える。刺激を軽減させるために、掲示はすっきりさせる。学校目標以外は貼らない。前面の黒板は、常に全面使用可の状態を保つ。今日の予定、明日の予定、生活目標などは、ホワイトボードを活用し、側面に貼る。
- ・ 学級が児童の居場所になるよう言語環境を整える。
- ・ スクールカウンセラー等を活用により個に応じた対応を行う。

イ 校内の指導体制（児童理解を深める情報交換と協力体制）を確立し、教育相談を充実させる。

- ・ 校内委員会を通し児童理解を深める。
- ・ スクールカウンセラーによる研修会を年3回行い、児童理解を深め、児童や保護者への対応を身に付ける。

ウ 校内の掲示物を充実させ、明るく、夢をもって学習に取り組める環境を作る。

- ・ 季節感や児童の成長を感じる校内掲示物を工夫する。

#### (6) 校内研究を充実させ、本校の課題に対し組織的に取り組む

本校の今年度の校内研究の課題は「ICTの活用、一人一台のタブレットの効果的な使い方」である。児童の学力を高めるための方策として以下の点を重点として推進する。

- ・ 研究におけるOJT組織を作り推進する。学年会、研究推進部会の組織的な取組を行わせる。
- ・ 授業研究と授業後の研究会、ミニ研修会で教師の授業力を向上させる。
- ・ 学年会・専科会・研究推進部会で指導効果を高めるための手立てを考えさせ、研究授業で実践、検証し日々の授業づくりで実践させる。
- ・ お互いに授業を見合い改善に生かす。
- ・ 週案作成と管理職による指導を行う。

#### (7) 地域連携を積極的に行い、地域に根ざした学校を目指す

ア スクールコミュニティの充実を図り発展させる。

- ・ 保護者、地域、スクールコミュニティ協議会による学校関係者評価や自己評価等により効果的な学校評価を行い、教育活動や学校運営の改善に生かす。

イ 保護者・地域の方々の思いや願いを受け止め期待に応える教育を推進する。

- ・ 年5回「多磨っ子公開日」、運動会、展覧会では保護者、地域に児童の成長や学級集団の変容を把握してもらう。
- ・ 道徳授業地区公開講座では、保護者、地域を交えた意見交換会を実施し、四小児童の良さと課題について考え、今後の学校としてのあり方を考えてもらう。

ウ 保護者・地域の方々の協力をいただき、教育環境の充実、地域安全マップ作り等を充実・発展させる。

エ 積極的に教育活動を公開するとともに情報を発信する

- ・ ホームページを月2回以上更新し、学校の様子を保護者、地域に配信する。

オ 六地区小中連携を発展させ、中1ギャップ解消のための手立てを進める。

- ・ 年間3回の小中連携の取組（府中第六中学校の授業参観、本校の公開授業、小中教員が協力して行う授業）を継続して行う。

- ・ 中学校で行われている学習マラソンと期末考査を5、6年生に導入する。
- カ 保護者、児童に地域行事への参加を積極的に呼びかけ、「ふるさと府中」の推進を図る。
  - ・ 児童に地域行事参加を推進するために、家庭にお知らせを配り児童を積極的に参加させる。
- キ 学校・家庭・地域の組織的・継続的な連携・協働体制を確立し、日々の教育活動や子供への理解の深め、課題解決を実践する。共通したビジョンをもった取組の展開通して、旧多磨村地域ぐるみで子供の教育に関する課題・目標等を共有し、連携協働による支援活動等の充実を図る。

#### (8) 安全管理及び安全教育を推進する

- ア 危機管理意識を高め、迅速・的確な対応ができる組織づくり
  - ・ 四小危機管理マニュアルに基づき、危機未然防止管理、危機最小管理、危機転化管理の徹底を図る。
- イ 安全教育
  - ・ 四小防災マニュアルの有効運用に努める
  - ・ 交通安全指導、防犯指導をPTA、地域、安全ボランティアとの連携強化し行う。
  - ・ 毎月の避難訓練の実施と日頃からの危機意識と対応力を高める。
  - ・ 学校、保護者・地域、安全ボランティア、関係諸機関との連携強化を図り登下校の安全管理、通学路の安全確認を行う。
- ウ 安全な教育環境づくり
  - ・ 定期的に安全点検を行い、安全確保に努める。
  - ・ 学校周辺の美化活動及び校庭の環境美化に努める。
  - ・ 学校警備員による巡回による抑止効果を高める。

#### ◎重点目標

##### (1) 基礎基本の徹底（数字は達成努力目標）

- ア 宿題や自主学習の継続指導と保護者の連携を図って徹底する。（全学年95%）
- イ 漢字小テストの継続、週末の計画的な実施等により漢字の定着率を図る。（全学年92%）
- ウ 計算力をつけるためにスキル学習をすすめる。（全学年80%）
- エ 算数、国語の単元別テストの達成率を向上させる。（全学年算数87% 国語90%）
- オ 年間を通じての朝読書、図書室環境の整備、読書ボランティアと連携し、読書に親しむ子供を育て、読書習慣の定着を図る。

##### (2) 学力向上を実現する授業改善

研究主任を中心に校内研究を推進し、年間2回の全体研究授業を実施する。（実施100%）  
また週案作成における内容の充実と週案指導を継続する（提出 100%）

##### (3) 挨拶運動を推進し、「先言後礼」のあいさつ励行100%を目指す。

##### (4) OJTの推進

- ア 校長と副校長による授業観察（年間 各学級3回以上）
- イ 週1回学年会を確保し学年会では授業研究と児童理解を毎回のテーマに取り上げる。
- ウ 校内研究推進における授業改善や児童理解をとおして、教員としての資質を磨き、指導力向上に努める。
- エ 校長通信を随時発行し、学級経営や生活指導・学習指導のポイントを教師に知らせる。
- オ 毎週の週案簿で、授業のヒントや、ICTの活用可能な取組を随時紹介したり、学級経営等の悩みに答えたりすることで、教員が自信をもって自己実現ができるよう激励・指導していく。

##### (5) 環境教育

- ア 栽培活動、節電・節水、ゴミ減量について通年実施する。
- イ 季節に応じた校庭樹木の剪定と学校花壇の美化と校舎内の整理整頓及び美化に努める。
- ウ 多磨っ子池（亀池）の水質浄化を推進し、児童の情操教育に役立てる。